

2015年5月1日発行(15-1号)

一般社団法人日本社会福祉学会

# 中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事: 横山正博(山口県立大学)  
広報担当: 片岡信之(四国学院大学)  
木村敦子(広島文教女子大学)  
高杉公人(聖カタリナ大学)

事務局: ノートルダム清心女子大学人間生活学部 杉山博昭  
岡山市北区伊福町 2-16-9

ホームページ: <http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>

## 目次

### I. 巻頭言

### II. 中国・四国地域ブロック第47回愛媛大会のご案内

### III. 中国・四国地域ブロック研究会の発足

### IV. リレーエッセイ

### V. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

### I. 巻頭言

#### 「社会福祉学の魅力」

「平成26(2014)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」<sup>1)</sup>によれば、45.8%の大学(実数は265/578校)で定員割れが起きている。中四国地区の大学を見てみると、広島県を除く中国地区の定員充足率は94.06%(広島県は92.44%)で、四国地区は90.47%である。もちろん中四国地方に所在しているすべての私立大学で定員割れを起こしているわけではないだろうが、総じて厳しい状況にある、と言わざるを得ない。

学部系統別の充足率も公表されているが、「社会福祉学」という括りではないため全体像を読み取ることは難しいものの、社会福祉学部に限れば91.62%の充足率である。ただ中四国地区の先生方から漏れ聞こえてくる声を拾えば、社会福祉学系の充足率は惨憺たる状況であり、「壊滅的」というのが偽らざる実感である。

運営資金の多くを学納金が占める私立大学では、定員割れは死活問題である。そこで各大学とも学生獲得のため、独自性や有用性を主張し、オープンキャンパスや普段の活動などを通して社会福祉学の魅力を訴えてはいるが、数字を見る限りでは、その効果は今のところあらわれてはいないようである。

若者の福祉離れや福祉人材不足が問題となるなか、社会福祉学系を専攻するわれわれ研究者は、「定員割れ」「福祉離れ・人材不足」という二重の苦しみを背負いつつも、社会福祉学の魅力をどう発信していけば良いのだろうか。

社会福祉学の目的は「人類の幸福実現にある」と一番ヶ瀬康子先生は指摘されたが、そのためには、社会の諸制度を充実させ、不幸を生み出さない環境を作り出すことが重要である。不幸の

根底には「貧困」が横たわっているのだから、社会福祉学とは、貧困との戦いである、といえよう。その戦いを客観的に検証し、また社会科学的に精査して分類し、方法論として確立すること、そして現実社会に応用することに、私は社会福祉学の魅力を感じている。

「定員割れ」という現実的な問題が幅を利かせる昨今では、学生確保を至上命題とした高校訪問や出張講義など、目的と手段が逆転した近視眼的な取り組みに陥りやすい。だが「定員割れ」という問題から少し距離をおき、社会福祉学が果たす使命を見つめ直し、われわれ研究者が「わくわく」「いきいき」と社会福祉学に向き合う姿が、社会福祉学の魅力を発信していることに繋がるとはならないだろうか。

1) 日本私立学校振興・共済事業団 (<http://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou26.pdf>)

(日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック副委員長 岡崎幸友)

## II. 中国・四国地域ブロック第 47 回愛媛大会のご案内

**日時:2015 年 7 月 4 日(土) 9:30~16:30**

会場: 聖カタリナ大学 1、2 号館 (〒799-2496 愛媛県松山市北条 660 番地)

※詳細については、添付ファイルをご覧ください。

**自由研究及び特定課題セッション登録締切が 5 月 29 日(金)、発表要旨締切が 6 月 5 日(金)、大会参加の事前申込締切が 6 月 19 日(金)**となっております。

大会案内は、後日、郵送でも送付いたしますが、すぐに添付ファイルをご確認いただき、早目のお申込をお願いいたします。

## III. 中国・四国地域ブロック研究会の発足

2015 年 2 月 22 日(日)に聖カタリナ大学で、中国・四国地域ブロック研究会の第 1 回研究会が開催されました。参加者は 4 名と(他に都合による欠席連絡 1 名)でしたが、新たに地域における実践活動を踏まえて大学院に進学されたばかりの若手研究者も加わり、中国・四国地域の地域性を踏まえた実践研究等の必要性と、研究者の地域情報ネットワークの必要性、さらに研究者と現場実践者との連携の重要性について話し合われました。

(日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック研究担当 加登田恵子)

## IV. リレーエッセイ

「これからの社会福祉研究に思うこと ―理論そしてアクションリサーチ―」

リレーエッセイということで執筆をお受けしたものの、一体何を書いたらよいのか悩みに悩み、どうせなら自分が考えているこれから必要となる社会福祉の研究について書いてみようと思いましたが、若い研究者が生意気にとおられるかもしれませんが、そこは私の勉強不足、知識のなさであり、広い心でお許しいただき、ご指導いただければと思います。

さて、私は非常勤講師も含めれば今年で大学教育等に関わり始めて 10 年目を迎えます。その間、色々な先生方や関係者の方にご指導いただきながら、主に社会福祉の理論研究を一つの柱にして

研究をしてきました。幸運なことに、2012年にミネルヴァ書房から出版された『岡村理論の継承と展開第1巻』にも寄稿させて頂きました。怖いもの知らずで、岡村理論の再考に挑んだこの論文は20代の半ばに書いたものであり、今考えれば反省点が山ほどあるのですが、基本的な考え方は変わっていません。

これからの社会福祉にとって必要なことは、社会福祉の持つべき人間観を改めて問い直すことです。特に、その後の研究の展開で示しましたが、権利という観点だけでなく、右田紀久恵先生が提起されている“生存主体”の視点は、現在の社会にとって重要な視点であると言えます。人が生きるということ、それが社会福祉の原点であり、そしてその生きることは文化的でなければなりません。私の師である高田真治先生は、社会福祉は政治・経済・文化のPEC構造から成り立つと説明されましたが、この文化に働きかけることが社会福祉にとって重要であり、そこから政治や経済を変えていくということを社会福祉内発的発展論で示されました。

文化に働きかけることは地域に働きかけていくことがその一つではないかと私は考えています。それゆえ、この地域での社会福祉に関する取り組みが、政治や経済を問い直していくのだと言えます。社会的企業やコミュニティビジネスなどへの関心も、こういった枠組みの中で整理されていくことが必要なのではないのでしょうか。同時に、そのことが理論と実践の結びつきになるのではないかと考えています。こういった点に関する理論的かつ実践的取り組みが、これからの社会福祉において必要なのではないかと思います。

また、実践的研究という点において、社会福祉研究者の研究スタンスも、私は考えていくことが必要であると考えています。そのキーとなるのではないと思うのが、アクションリサーチの手法です。従来の科学研究の枠組みに従うのであれば、研究対象者との客観性が確保されていることが必要であり、研究者はその起こっている事象に関与すべきではないということになります。それに対し、アクションリサーチは、研究者と研究対象者（研究対象地域）が共同して、目指すべき社会や地域へ向けて活動を



写真① 地域でのワークショップの様子

を展開していく社会実践です。アクションリサーチは、社会運動とも深い関わりを持ち、進めていく中で次第に政治的实践へも変革する可能性のある活動であることをその特質にしていると言われています。これはまさに、今の社会福祉に必要不可欠ではないかと思うのです。

私自身、近年は大学のある地域の地域の方々と共に、研究ならびに学生への教育を視野に入れた活動を始めました。地域の方と学生と一緒に地域の課題を探るワークショップ（写真①）、民生委員や町内会と協力した一人暮らし高齢者の方への訪問調査（学生の卒業研究も含む）、町内におけるコミュニケーションツールの開発など、現在進行形のものも含め、少しずつ展開してきています。また、今後はNPOや地区の社協、小学校、学生などとも協力し、子どもの貧困問題に関する取り組みを展開する中で、子どもの貧困に関する当該地域での実態を明らかにし、その中でのプロセスを描き出す調査活動も共に進めていく予定にしています。今後は、こういったそれぞれの活動の関係者の方とより協議し、地域にとって意味のあるものにまとめていくことが必要であると考えています。

以上、言葉足らずであることを自覚しつつ、思いつくままに書かせてもらいましたが、私は理

論というものは、現状を説明するだけでなく、こういった状態が望ましいなどの理想の形態を、これまでの思想や実践の積み上げから検討し、その理想に向けた取り組みをも示すことが必要なのであると考えています。この流れをつくってみたい、いや、必要であるというのが私の考えでもあります。その道はまだまだ遠い気がしますが、色々な方からご指導いただきながら、少しずつ一歩ずつ進めていきたいと思っています。

(川崎医療福祉大学医療福祉学科 講師 直島克樹)

## V. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

# 日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌 「中国・四国社会福祉研究」第5号 投稿原稿募集

中国・四国地域ブロック機関誌（査読あり）の第5号を発行する運びとなりました。中国四国地方ならではの社会福祉の諸課題、社会福祉の実践活動を全国に発信していきたいと考えています。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。

### 投 稿 要 領 等

【執筆要領】 日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』の執筆要領に準じます。  
・チェックリスト提出 ・図表含めて20,000字以内（A4 40字×40行 ワード作成）・3部提出 など  
※投稿要領等の詳細は中国・四国地域ブロックのホームページをご覧ください。<http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>

【原稿締切】 2015年11月30日（月）

本大会の自由研究報告者の  
積極的なご投稿をお待ちしております。

【原稿送付先】 〒716-8508 高梁市伊賀町8 吉備国際大学 岡崎幸友研究室  
中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会 事務局宛

その他、ご不明な点は本機関誌編集委員会まで、お問い合わせ下さい。なるべくメールでお問い合わせください。

編集委員会事務局 原稿送付先と同様  
tel&fax 0866-22-9209  
e-mail [yuki@kiui.ac.jp](mailto:yuki@kiui.ac.jp)